

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・雪解けが早かった割に寒い日が続いたが、観光客は増えている。特に外国人観光客については、東南アジアからの観光客による売上が30%近くを占めるなど、助けられている。売上の前年比は98.8%、一昨年比は115.6%となっている。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・客単価が上昇し、来客数を維持していることから、売上が増加している。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・青果物の取扱量が好調なため、景気はやや良くなっている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・相変わらず高額商材が売れており、客単価を押し上げている。特に夜の店では1本1万円以上のシャンパンがよく売れている。販売量も増えており、売上を押し上げている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・史上初の10連休を前に、客の購買意識が高まっている。また、連休中は地方からの来客数が大きく伸びることも見込まれる。
		スーパー（役員）	それ以外	・新元号に関連した商戦、ゴールデンウィークの10連休など、消費が活発になるきっかけがあったことから、景気はやや良くなっている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・観光客が増えており、それに伴い販売量も増えている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が出ることで好調な状態をキープできている。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・暖かくなってきたことで、主要顧客の高齢者が外出するようになってきている。ただ、天候に影響されるほど、顧客の高齢化が進んでいるということでもある。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ランチ、ディナー共に予想を上回る売上となるなど、景気はやや良かった。北海道ふっこう割が3月で終了するとみられていたこともあり、4月1週目は観光客が激減して、例年の半分以下になったが、大型連休のニュースが増えるにつれて来客数が日増しに増加し、10日過ぎからは例年を上回るペースで推移し、ゴールデンウィークを迎えようとしている。ゴールデンウィーク前後は旅行料金が高くなることもあり、時間に余裕のあるシルバー世代がゴールデンウィークの混雑を避けたためとみられる。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・北海道ふっこう割を利用した旅行商品の利用客が堅調に推移した。また、国内からの報奨旅行も好調であった。
		通信会社（企画担当）	来客数の動き	・大手全社の通信サービスにおける秋からの販売方法の見直しに伴い、通信端末料金の値上がりが見込まれるため、駆け込み需要が徐々に増えてきている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・大型連休を控えて、客の雰囲気がお盆前のようになっている。4月後半になって来客数が増加している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・ツアー客を始めとして利用客が増加しており、それに伴い車両や荷物の輸送量も増加傾向にある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順により来客数が5%以上減っている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応は前月と変わっておらず、評価できない状態にある。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・季節要因を除けばやや悪い状態で推移している。特に商店街区域の駐車場の在庫数や乗合バスの乗降客数は低調である。また、当地をロケ地としたドラマが4月から放映開始となっているが、当区域において目立った観光客の増加などはみられない。	

一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・ 時期的には閑散期であるが、3か月前と比べると外国人観光客が増えている。外国人観光客の入込は、北海道胆振東部地震の影響がほぼなくなったこともあり、前年以上になってきている。一方、国内客の入込はゴールデンウィーク前ということもあり、やや厳しい状況にある。
百貨店（売場主任）	販売量の動き	・ 3か月前と景気は変わらない。食品、特選などの部門は上向きだが、婦人服、紳士服、リビングなどの部門は下向きが続いている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・ 買上点数や客単価は前年を維持しているが、来客数が減少している。ゴールデンウィーク前の客の購買行動をみても、衝動買いが少なく、目的買いが多い。
スーパー（役員）	来客数の動き	・ 客単価を3か月単位で見るとほぼ前年並みを維持しているが、ここ数年、来客数が前年から1.5～2%の落ち込みで推移している。他社の開示データなどをみても、当地域全体の消費支出が上昇することは考えにくい。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・ 漁業の動きをみると、特にタラが前年と比べて良くなっていることから、客の動きが変化してきている。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・ 新型車効果を見込める販売店を中心に受注量が増えてきているが、メーカーからの供給状況が悪い。新車登録に伴う売上はレンタカー需要が活況だが、全体としては大きく変わらない。
自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・ 前年と同じ施策を行っているにもかかわらず、来客数が前年の90%にとどまっている。タイヤ購入が減っていることが主な要因となっている。タイヤ販売に関しては近隣の競合店も同様に苦戦している。
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・ 改元に伴い客の購買意欲が高まっており、一時的に景気は良くなっている。ただ、こうした状況は長く続かない。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ 今年のゴールデンウィークが10連休になったという特殊要因のため、4月前半の旅行が控えられ、売上が悪くなることを心配していたが、当地へのクルーズ船の入港などもあり、来客数は前年から19%の増加となった。ゴールデンウィークに入ってから想定以上の来客数がみられ、29日には前年の倍以上の来客数となるなど、ここ数年の記録を更新している。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・ 当地の観光宿泊客数はゴールデンウィークが10連休となった効果もあり、好調を維持している。当地を舞台にしたドラマの効果も見込めることから、今後も好調を維持することになる。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ 前年と比べて、来客数及び販売量が減っている。
タクシー運転手	来客数の動き	・ 4月の当社の売上は、タクシー1台当たりでは3%ほどのプラスとなったが、乗務員不足でタクシーの稼働率が大きく落ちており、会社の売上は3%ほどのマイナスとなった。
タクシー運転手	来客数の動き	・ 外国人観光客やイベント関係での利用実績に大きな変化はみられなかった。スキー客は前年と比べてやや減少したものの、全体的にほぼ例年並みの水準まで回復してきている。ただ、国内観光客の減少傾向は変わっていない。
タクシー運転手	販売量の動き	・ 例年、この時期は歓送迎会に伴い業務繁忙となる日があるが、今年は繁忙な日が余りみられない。
タクシー運転手	お客様の様子	・ 前年の4月は数%の落ち込みであったが、今年は2けたの落ち込みとなるなど、厳しい結果となっている。3か月前と比較しても悪くなっている。今後、春を迎えて、どのような動きになるか予想もつかない状況である。
観光名所（従業員）	来客数の動き	・ 前月までは利用乗降客数が前年を上回り続けていたが、4月は例年並みの利用乗降客数で推移している。
住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・ ここ数年、分譲マンションのモデルルームへの来訪者数に大きな変化はなく、来訪する客の様子にも大きな変化はみられない。全体的に良い状況ではないが、良くないなりに安定している。

	商店街（代表者）	お客様の様子	・4月は統一地方選挙があった。選挙のときに暇になるのは当たり前であり、ふだんなら選挙が終わった後に回復することになるが、今回は低調なままであり、商店街は閑散としている。ゴールデンウィークに突入しても、このままの状態が続くと大幅な営業不振に見舞われそうだ。
	百貨店（役員）	競争相手の様子	・2か月前はライバル店の閉店に伴う業績の回復傾向がみられたが、そのときは状況が大分変わってきており、景気はやや悪くなっている。
	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・ここにきて、とにかく景気が良くない。客の買物の様子を見ると、必要最小限にとどめている。様々な食品が値上がりし、今年10月には消費税増税が予定されていることを考えれば、当然の動きといえる。価格を据置きにして容量を縮小しているものなども含めれば、本当に沢山の商材、サービスが値上げしている。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・値上げを行ったにもかかわらず、売上の伸び率は低下したままである。値上げした分だけ、客単価が上がっていないことから、客が安い商材にシフトしている。特にアイスで値上げしていない商材の動きが良くなっていることから、嗜好品であっても値段を気にして購入している客が多い状況がうかがえる。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・春のスーツの販売量が前年の80%と大きな落ち込みをみせている。
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・4月前半の来客数は前年と変わらなかったが、後半になり前年から1割ほど落ち込んだ。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・春先需要はあったが、全体の販売台数をみると、売れているセールスマンと売れていないセールスマンの差がはっきりと出ているため、景気は良くなかったことがうかがえる。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売台数が目標の70%しか達成できていない。客の動き、来客数共に3月と比較して悪くなっている。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・4月は統一地方選挙や10連休の影響で、第1週と第4週の売上が悪くなると見込んでいたが、そのとおり悪かった。
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・例年4月は観光需要、ビジネス需要共に最も動かない時期である。特に今年は統一地方選挙があったため、前年と比べても動きが鈍かった。
	旅行代理店（従業員）	それ以外	・夏期ボーナスの支給月数が見込みよりも少なかったため、景気はやや悪い。
	タクシー運転手	お客様の様子	・改元に伴う記念イベントや大型連休を控えて、客の利用頻度が落ちてきている。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・全体的に消費税増税前の駆け込み需要が残り生じていない状況であるが、特に住宅関係では駆け込み需要がほとんど発生していない。
	百貨店（営業販売促進担当）	来客数の動き	・4月中旬以降の来客数が減少している。統一地方選挙の影響もあるが、大型連休前の消費動向が弱くなっていることが大きな要因である。衣料品が奮わないほか、雑貨、食品も来客数の減少に伴って苦戦状態が続いている。
	スーパー（店長）	単価の動き	・4月の売上は3か月前と比べて5%ダウンしている。前年との比較でも、売上が前年比72%、来客数が前年比87%と悪かった。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・桜のシーズンを迎えているが、当地はまだ冬と春の端境期であるため、外国人観光客も含めて集客が弱く、苦戦している。
	タクシー運転手	販売量の動き	・近距離輸送の落ち込みが顕著となっている。利用者の節約志向に起因している。
企業 動向 関連  (北海道)	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・大型連休に向けた準備として、消耗品などの購入を先行する動きがみられ、売上が伸びた。
	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・見積物件の件数が増加している。
	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年度からの繰越工事と4月着工の新規受注で、新年度前半の工事量が確保できており、フル稼働状態で新年度がスタートしている。

	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前は株価の大きな下落がみられた直後であったため、企業活動全般に警戒感や先行きへの不安感が支配的であったが、現在は企業活動にも以前の勢いが戻ってきており、当社の販売量も回復してきている。3か月前との比較では景況感はやや良い状態にある。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・個人消費は底堅く推移している。弱含みで推移していた住宅投資も消費税増税前の駆け込み需要が発生していることで、持家、分譲戸建てが持ち直し、前年を上回っている。公共投資も底打ちし、観光も外国人観光客の復調により回復している。景気は3か月前に比べてやや良くなっている。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末の残作業が増えていることで景気はやや良くなっている。ただ、新年度の新規案件が順調に出てきているわけではない。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・災害復旧工事、民間建設、都市部の再開発、北海道新幹線の札幌延伸関連工事などの需要が高まっている。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・1～3月の売上は前年割れであったが、4月は前年並みに回復している。5月以降の公共工事も増加見込みとなっている。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と同様に販売量が落ちたままとなっている。前年と比べると約1割の減少となっている。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・天候不順に加えて、大型連休前ということもあり、家具などの動きは余り良いとはいえない。
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引や建物の新築などが依然として低水準で推移していることから、景気はやや下向き傾向にある。
	司法書士	取引先の様子	・景気回復の兆しはまだ見えないが、例年よりも雪解けが早かったことから、冬期の重苦しい雰囲気は薄れてきている。また、統一地方選挙が終わり、知事の交代などがあつたことなどから、何となく経済が先に進むような雰囲気がある。ただ、景気の悪さから抜け出せるほどでもない。
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・取引先の経営者と面談しても意見が分かれている。今年分の設備投資を大幅に実施する会社と慎重な姿勢を崩さない会社に二極化している。
	建設業（従業員）	それ以外	・皇太子殿下の御即位に伴う大型連休を迎える中、休みとなる建設現場が多くみられる。以前はこうした休みに関係なく稼働していたが、働き方改革の影響もあり、休みを取るところが増えている。
	司法書士	取引先の様子	・例年と比較して不動産の売買、建物の新築工事が少ない。
	x 食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・4月の販売量は前年比92.7%であったが、3か月前の1月の販売量は前年比95.9%だったため、景気は悪くなっている。
雇用 関連 (北海道)	-	-	-
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・4月は3か月前の約1.5倍の求人登録があつた。新規求人は堅調に増えており、世の中に求人があふれている。職員の退職に伴う求人もあるが、事業を拡大するための求人が中心となっている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・外国人観光客の入込が堅調なことに加えて、北海道ふっこう割の効果もあり、観光関連やサービス業などの業種が好調である。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・前年と比較して応募者数の減少が顕著になってきていることから、全業種、職種が多くで人材不足が深刻になっている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・正社員求人の件数が減少している。働き方改革への対応が求められていること、消費税や選挙などの動向が不透明になってきていることから、様子見の動きがやや強まっている。

	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・今年はや雪解けが早く、当地の主要産業である農業は例年より早めの動きになっている。また、改元を控えて、観光関連、小売業ではフェア、イベントなどの準備で忙しいとの声をよく聞く。ホテルは10連休の初日と最終日以外は予約が好調である。旅行会社では、海外旅行の予約客が前年の1.5倍だったと聞いている。4月1日に新入社員を迎えた企業では、元気印の新人が社内の雰囲気を活気づかせている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・3月の有効求人倍率は1.13倍であり、前年を0.04ポイント上回り、9年1か月連続で前年を上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・3月の新規求職者数は前年並みだったが、有効求職者数が2か月連続して増加している。有効求人数も増加しているが、増加幅の割合から有効求人倍率は低下している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・3月の有効求人倍率は1.12倍であり、前年を0.05ポイント上回り、高い水準で推移している。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・一昨年や前年と比較して、各企業の新卒採用担当者に新たな動きがみられない。ただ、観光関連の業種において日本語と英語に堪能な中国人留学生の引き合いがみられるなど、業種によってはいまだに上向き傾向にある。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・採用が決まるまで求人広告を出し続ける企業、店舗が少なくなった。人手不足感や求人ニーズは相変わらず高いが、コストや市場動向を見極めながら、できる限り無駄を省いて効率的に募集をしたいというクライアントの意識が強くなっている。
	x	-	-